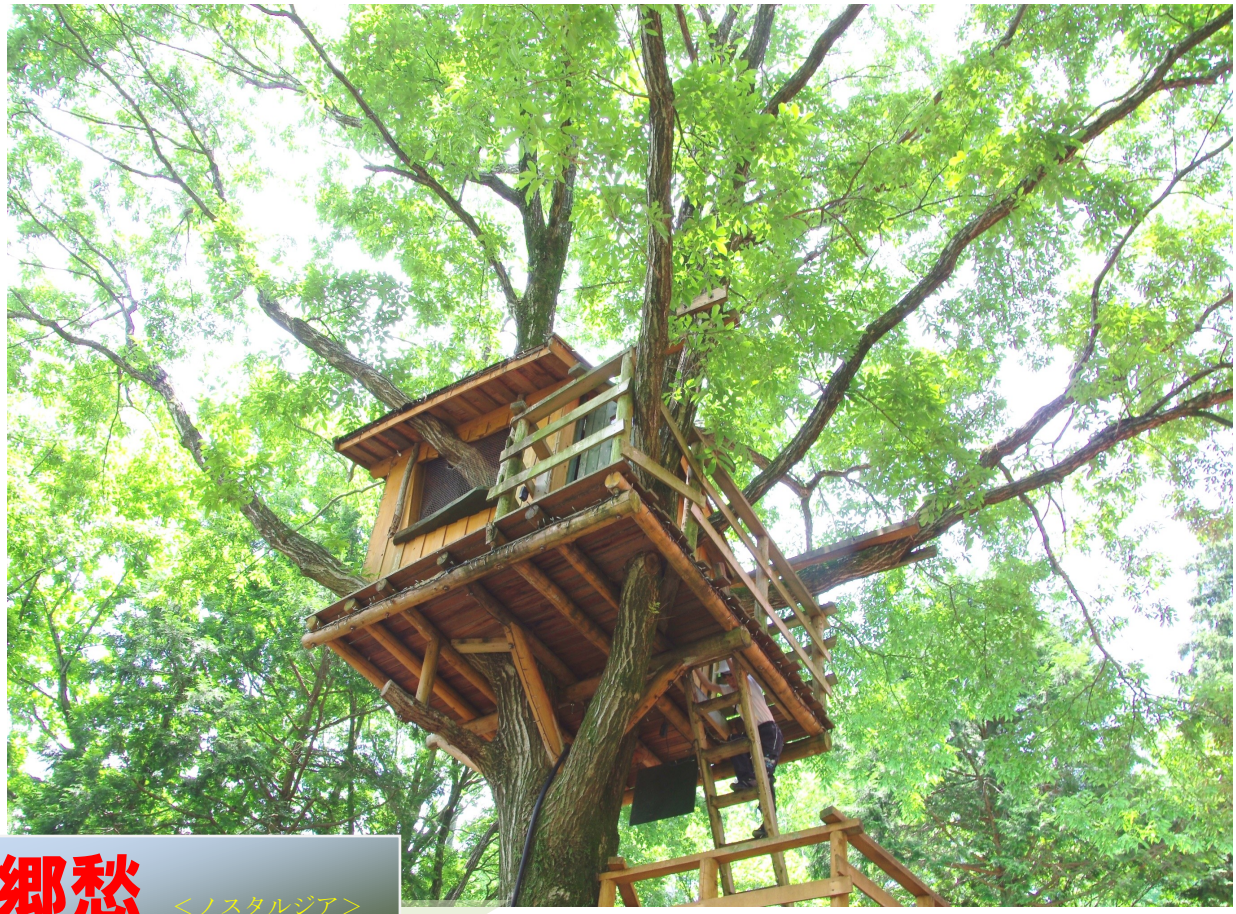
全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

http://www.shijuku.net

第47号(平成26年７月号)



郷愁 ＜ノスタルジア＞

Photo by Joh Tadamichi

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局　仲野十和田
〒173-0005　東京都板橋区仲宿55-8-205　ナカジュク内
TEL:03-3963-5572　FAX:03-3963-2529
Mail:center-office@shijyuku.net

理 事 長　湯口　兼司
TEL0875-72-3262
広報部長　大住　明敬
TEL048-957-8608

理事長 コラム

理事長　湯口 兼司（香川県・湯口塾）

この広報7月号が発行される頃、皆さんは夏期講習に向けての準備にお忙しい日々を過ごされている、また早いところは夏期講習に突入されているかも知れません。生徒たちがこの講習をきっかけにして受験に向けて良いスタートを切ってくれると良いですね。私は常々子供たちに対して、『将来自分がどんなふうになりたいのかを想像して身近な今の目標を決めようよ！』と提案します。もちろん計画を立てるのは早ければ早いほど良いし、途中で行き詰ったら、またそこで次なる計画を立てたらいいよ。大切なのは最後まで諦めないことだよと伝えます。話は変わりますが、エリア四国の『秋の研修会』は9月28日（日）に弁護士の八十祐治氏を講師として愛媛県新居浜市(リーガロイヤルホテル)にて開催されます。その八十先生は神戸大学卒業後サッカーのガンバ大阪に入団し、その後ヴィセル神戸などを経て３１才で引退、営業などをしながら司法試験の勉強をして３６歳で合格、まさに自分の目標に向かって最高の努力をされた方ですね。研修では他に神野進学教室の神野純典先生と若手の先生方がコラボして「生徒及び父母面談のケーススタディ」を実践してくれるそうです。是非ご期待ください！

またそれに先立つ８月３１日（日）にはエリア東北主催の研修会『東北の復興は教育からⅡ』が青森市（アップルパレス青森）にて開催されます。翌日の９月１日には様々な観光オプションも企画してくれています。勿論私も久しぶりの東北を楽しませて頂くつもりです。出来るだけ沢山の方々の参加を期待しています。そして多分私塾ネット関東恒例の懇親旅行も９月初めの日曜日かな？と考えています。こちらはゆっくり、のんびり、じっくりとみなさんとお話が出来、そしていつも美味しいものを提供して頂けるので楽しみです。７月、８月と講習等に一生懸命頑張って、秋にはみなさんにお会いするのを楽しみにしています。私塾ネットは久しぶりに顔を合わすと、お互いにホッとする、そんな団体でありたいと考えています。みなさん方もお身体くれぐれもご自愛ください！

エリア通信

エリア東北　　関 志郎
（青森県・関教育学舎）

青森県の公立高校入試制度が平成２７年度入試から、２６年度までの前後期選抜方式から、統一入試（学力試験は一回）に変更されます。

一発或いは一回だけの入試制度は、過去にも実施されていて、学習塾としては、対応が楽になるのですが、生徒・保護者の受け止め方は様々です。

平成２２年度入試から、受験機会の複数化と、入試得点だけに囚われない、各高校独特の入試制度を設け、多種多様な才能を発見し、特色のある生徒獲得を目的として導入された前後期入試制度でした。

しかし、県教委の意図に反して、国公立大学の前・後期或いはＡ・Ｂ方式と同様、県内各高校が前期で定員の９０㌫、後期で１０㌫という募集定員を打ち出し、受験の複数機会は有名無実となり、各校独自の入試制度も、一部の上位校で前期募集枠の２０～３０㌫の生徒を内申点にかかわらず、英数国に傾斜配点をして評価という内容が殆どでした。中には、数校、内申書や部活等重視の高校或いは学科もありましたが、特色のある或いは一芸に秀でた生徒は、獲得できそうにはない名目だけの改革でした。

５回の実施で、改訂というか、元に戻るので、前後期制は何のためだったのかという疑問が残りました。その改訂の口実としての提言、疑問・不満は以下の通りでした。

●保護者が前後期制の問題として、学校・教育委員会に突きつけた問題は、

①前期試験・卒業式・前期発表・後期試験・後期発表というスケジュールの中で、卒業式を落ち着いた気持ちで迎えられない。→　謝恩会を実施しない中学校の増加

②前期発表から後期出願まで丸一日しかない。→後期受験を避け、私立に流れる

③後期発表が３月２０日近くになり、私立と併願している場合、手続き上問題がある。

④受験機会が２回と言われているが、実質的には一回しかないのでは。→　公立中学の進路指導は、前期が落ちると一ランク下の学校・学科を薦める　→前期・後期で同一の学校・学科を受けるのは希、かつ合格率が低い。

●教育現場（主に公立中学校）からは、

①２月中に全教科書を終了できない。（前期入試は３／５前後）→出題範囲の減少　→　基礎学力の低下（これは私見です。）

②前期合格者にとっては、高校の入学式まで一ヶ月近く有り、私生活の乱れが心配　→　素行不良等のため合格取り消し例も有り

③前期発表から後期出願まで丸一日しかない。　→後期出願の進路指導不十分　→　後期定員割れの学校

・学科増加

その間、県内の学区廃止、絶対評価から相対評価へ、学校間或いは地域間の評価の較差、等々を抱え、昨年秋に県の諮問機関が出した結論が、統一試験＝学力試験は一回のみ実施するとなった次第です。　ただし、定員に満たない場合に限り、補充募集は認められています。

新年度早々、一発入試を聞いた、新中学３年生・２年生の反応は、

「どうして、今年度からなの」「一発入試で落ちたら、私立しかないの」「入試問題が難しくなるの」等々、歓迎の言葉は一切聞くことができませんでした。

制度の改変、指導要領の見直し等々、大人が或いは政治家が自分たちの見た目だけで教育制度の改訂や入試改革を続ける以上、続けても、改変しても不平・不満は避けられないことなのだとは思います。しかしながら、もう少しだけ、子供の目線で、生徒の感覚で、入試制度を考えれば違った結論が出たのではないでしょうか。

青森の県教委は、非常に真面目というか、自立していないと言うべきか、文科省の提言にすぐ飛び着きます。十数年前に、中高一貫校の制度が発足した際、県内に二校の中高一貫校を全国に先駆けて作りました。

中高一貫教育で、カリキュラムの無駄をなくし、中学と高校の教師がお互いに行き来し、情報の交換、教授法の研究などが主たる目的で、一環した教育を通じて学力の向上を目指すはずでしたが、むつにできた一校の謳い文句は「○○中学校に在籍していると、○○高校に入れます」でした。「高校受験の必要がないよ」と堂々と喧伝していました。実際に、学区内に親子で引っ越した例も少なくありませんでした。形としての中高間の教師交流はあっても、中高一貫の教務内容に関するカリキュラムの長いスパンでの立案の実態がありませんでしたので、当該一貫校での学力低下は、坂道を転げ落ちる球のようでした。

「アルファベットを書けない高校生」「かけ算の九九が出来ない高校生」が○○高校の代名詞となり、○○中学でも、上位の生徒たちは揃って同じ市内の◇◇高校を受験するようになりました。改編・再建等の話もありましたが、４年前に改廃し、それぞれ単独の中学・高校として存続していますが、元のレベルに戻るために四苦八苦しています。

そのような負の遺産もあるのが、青森県の高校入試或いは、高校の現状です。

九州、中・四国から関東、北海道に至るまで猛暑の中、豪雨或いは雹被害などもあり、大変な気象条件の中で、夏期講習の準備等に業務繁多の折と拝察いたします。

エリア東北では、８月３１日に青森で研修大会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

研修内容は多いとは申せませんが、翌日の観光プラン等もご検討いただき、夏期講習の最後に、自然豊富な青森にいらっしゃいませんか。

現在語られている記紀万葉から鎌倉・江戸に至る正史と言われている歴史以外に、北東北の津軽（歴史書では東日流）に、しかも日本海側に壮大な文化があったことを記す歴史書が存在することをご存じでしょうか。ネットで「津軽外三郡誌」として検索してみて下さい。

三大霊場の一つ恐山、マグロの大間、寒立馬（かんだちめ）の尻屋崎等々、この機会でなければ、まず訪れることのないであろう観光スポットがございます。

たまには、勉強抜きで、悠久の失われた歴史等を友と語り合うのは如何でしょう。

エリア東北一同で、お待ちいたしております。

三途の川を渡って霊場恐山へ…

エリア東北　研修会のご案内

悠久の歴史探訪と震災復興への想いを込めて

津軽外三郡誌という書籍をご存じでしょうか。1975年に市浦村が古文書発見をきっかけに津軽一帯の知られざる歴史を、村史として刊行したものです。真贋論争が起き、偽書のレッテルが貼られましたが、未だに真書という擁護論もございます。NHKの大河ドラマ「炎立つ」や内田康夫氏の「十三の冥府」にも引用されました。青森県生まれの私としては、近畿或いは九州中心の歴史書より、遥かに興味深く、夢をかき立てられる内容であることは確かです。その舞台が十三湖（三郡誌中では「安東水軍の十三湊」）です。十三湊は大津波で滅んだとされています。また、弘法大師が開山したとされる恐山の地下には、日本でも有数な金鉱脈があるそうです。弘法大師が山師だったという説を裏付ける材料の一つと考えられます。他にも青森県内には、三内丸山の縄文遺跡、遮光器土偶等々があり、「白河まで或いは多賀城までが大和で、その先は蝦夷の世界」と言い伝えられてきた日本の歴史の中で、東北にも平泉の中尊寺金色堂や十三湊（湖）等の独自の文化が存在していたことを信じたい想いがあります。来青の機会に、十三湖や恐山を訪ねていただければ、違った歴史観が生まれる可能性があります。東北エリアの会員が、サポートさせていただきますので、悠久の歴史散歩は如何でしょうか。

私塾ネット　エリア東北　　関　志郎

主催　　全日本私塾教育ネットワーク（理事長　湯口　兼司）
主管　　同　　エリア東北　　（エリア代表　渡部　信雄）
協賛　青森県学習塾協議会（会長　野々上　隆）

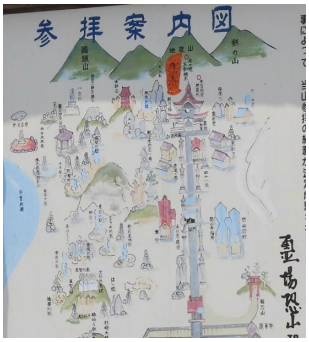
研修会　実施要項

期　日　・　時　間　：　平成２６年８月３１日（日）　午後２時～５時
会場（懇親会・宿泊）：　アップルパレス青森　（017－723－5600）青森市　　懇親会：６時より
講　　師　　：　福島県　福島成蹊中学・高校長　　本田　哲朗　氏
研　修　テ　ー　マ　　：「東北の復興は教育から　Ⅱ」

研修費等

研修会のみ参加　￥2,000　　②　研修会・懇親会参加（宿泊なし）　￥9,000
③研修会・懇親会参加・宿泊（シングルorツイン）　￥19,000
④懇親会のみ参加　￥8,000　　⑤懇親会参加・宿泊　￥18,000
観光　オプション（９／１（月）午前９時出発予定）自費参加
A　会場→金木町＝斜陽館から十三湖→新青森駅→青森空港（９／１午後３時予定）
B　会場→野辺地→むつ＝恐山、尻屋→ＪＲ大湊駅（9/1午後６時５分、八戸ではやぶさ38号に接続）
むつ泊（9/2午前８時２分、八戸ではやぶさ14号に接続）

十三湊遺跡と十三湖



霊場恐山入口

連絡票　参加者氏名、　参加内容

７／25までに、ファックス、メールでお送り下さい。下記の連絡票をコピーしてご利用ください。

送付先　エリア東北　代表　尚志舎　渡部　信雄　宛　**FAX　017－776－6340**

メールアドレス　shoasa1@vesta.ocn.ne.jp

観光オプションＢに関する質問等は　関　宛　メールアドレス　qqpc93qb9@vega.ocn.ne.jp

エリア東北研修会連絡票	参加者氏名	参加者氏名
	参加者氏名	参加者氏名
参加項目に〇印をお付け下さい	研修会　懇親会　宿泊	宿泊は（シングル・ツイン）希望
来青日時　日　時　分	到着場所　駅　空港	
会場アクセス方法に〇印を。	サポートが必要	サポート不要
サポートが必要な場合は、後日集合時間と場所をお知らせします。	青森空港で合流希望	新青森駅で合流希望
前泊希望の有無	有り　日より　泊	無し
観光オプションの希望の有無	Ａ希望　Ｂ希望　9/1帰　9/2帰　無し	
月曜朝　帰京時の出発場所	新青森駅　時　分　予定	青森空港　時　分　予定
塾名・校名	電話	FAX
メールアドレス		
その他　希望・質問等		

エリア中国　西本　雅明
（広島県・パワーゼミ西本）

７月は私塾ネット中国恒例の研修会です。今年は「チラシの研究」をします。各塾が持ち寄ったチラシを参加者に「ほめたり」「けなしたり」してもらう、という企画です。「チラシ」に対する依存度や考え方の違いが各塾にあり、どのような盛り上がりになるのか少し心配ですが、やってみようと思います。「チラシには効果が期待できない。」と、言われていますが、僕の教室は季節ごとに祈りを込めてチラシを撒いています。授業を一生懸命にすることは当然ですが、口コミだけで募集が終了するほどの自信もなく、結果としてチラシに祈りを込めることになります。基本的には町の評判（口コミ）は欠かせないとは思いますが、チラシなしでは評判も耳にしてもらえないしホームページも見てもらえないのではと、募集期は特に弱気になります。チラシを折り込んだ日に電話が鳴らないと、「電話機、故障か？」「故障かもしれんから、ちょっと電話かけてみて。」って、アホな心配をしています。笑い事ではありません（笑っていいけど）。新聞社やフリーペーパーの塾企画なんかは、僕にとって脅迫です。時刻表、地図屋の防災マップ、電話帳等、脅迫の種類は多種多様で、僕は脅迫に屈するタイプですから、ついつい乗っちまうことしばしばです。脅迫をはね返す強い心と知恵が欲しいです。「チラシ研究会」では、そこのところも教えていただきたいと思います。

最後に私事で恐縮ですが、先日のソフトボール大会において我がティーチャーズは（１３－１）で迎えた最終回に１２点取って（１３－１３）の引き分けにもちこみ、ジャンケン勝負では圧倒的勝利で、今年度の初勝利をかざりました。（サッカーのPK戦のようなジャンケン戦）

パワーゼミのある福山はバラの町として有名

私塾ネット四国　平成26年度･秋の研修会in新居浜

・会場　リーガロイヤルホテル新居浜
　　愛媛県新居浜市前田町6番9号　ＴＥＬ（0897）37-1121
・日時　平成26年9月28日（日）
・参加費　研修会のみ　1000円　懇親会のみ　7000円
　　研修会・懇親会　7000円
＊ご宿泊希望の方：リーガロイヤルホテル新居浜7800円
　　（シングル・朝食付き・税・サ込み）

スケジュール

受付開始　午後12時30分
開会挨拶　午後1時30分～午後2時
研修会　午後2時～午後3時15分

「保護者面談のイロハ」

しなければいけないのはわかっているけれど、何となく気が重い保護者面談。そもそも保護者面談って何なんや。ということで私塾ネット四国の有志でささやかな勉強会を始めました。大それたことに今回は勉強会の成果を報告させていただきたいと思います。

私塾ネット四国　保護者面談研究会
丸橋塾　丸橋俊行
稲伸ゼミナール　山本壮太郎
神野進学教室　神野純典

基調講演　午後3時30分～午後5時
講演　弁護士・八十祐治氏
「人生の決断…Ｊリーガーから弁護士へ」（今、子供たちに伝えたいこと）

八十祐治氏
1969年、大阪府高槻市生まれ。茨木高校から神戸大学経営学部入学。1993年、神戸大学からガンバ大阪に入団。その後ヴィッセル神戸、アルビレオ新潟（アルビレックス新潟）でプレーの後、横河電機でプレーし、2000年に8年間の選手生活を終える。
人材派遣会社で営業を続けながら、2002年に英語の教員免許を取得。並行して司法試験の勉強を始め2005年司法試験合格。
現在は摂津総合法律事務所で、第一線の弁護士として活躍中。
インタビューに答えて
「個人的には子供が大好きなので、子供たちが安全に安心にて暮らせる国づくりへの貢献もできるといいですね」

懇親会　午後6時～午後8時
「あかがねナイト」

八十祐治氏も参加予定です。お聞きになりたいことがあれば是非。

文責・神野進学教室　神野純典

エリア四国　小野　昭
（香川県・小野塾）

今回、四国のエリア通信を担当させていただきます、小野塾、小野　昭です。
全国の諸先生方にはいつもご指導を頂きまして紙面をお借りしてお礼申し上げます。
また、四国の研修会では遠方よりお越しいただき嬉しい限りです。今後とも皆で刺激しあいながら頑張っていきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

さて、今回は「香川県の高校入試に対する自塾での取り組みについて」と題しましてエリア通信とさせていただきます。７月号をお読みのこの時期はなんと言っても夏期講習ですよね。先日６月２８日（土）に中学３年生対象の保護者説明会を実施いたしました。テーマは上記「高校入試に向けての塾での取り組み」で、下記のお話をさせていただきました。

夏期講習について

ここでは夏休み明けに実施される第2回学習の診断テストで、いかに成果を上げるかについて力説いたします。教壇の上には夏に使う教材とﾌﾟﾘﾝﾄがどさっとおいてあります。その厚みにビックリしてもらいます。

９月からの取り組み

９月からは英語・数学に加えて理科・社会・国語の５教科体制の指導になります。香川の入試は各教科５０点の５教科で、合計２５０点で行われます。得点アップにはどの教科からでも点を伸ばしていくことが必要です。生徒は最高週５日塾へ通うことになります。

入試説明会及び進路面談について

１２月７日には本年度の入試について、県教委が発表する内容などを元に入試説明会を実施いたします。あわせて個別進路相談の受付を行い、後日実施いたします。

冬期講習及び日曜特訓について

入試直前の日曜日を使って本番さながらの模擬テストを行います。

ソフトボール大会

なんといっても小野塾は生徒と共に汗を流します。入試が終わった後はソフトボール大会です。

これからだというこの時期に入試までの取り組みを概ねご理解いただくことは、生徒・保護者・塾が一丸となって進んでいくにはよい機会であったように思います。
間もなく、熱い夏期講習がやってまいります。ご自愛いただきながら、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

リーガロイヤルホテル新居浜

エリア四国・2014年春の研修大会

日時:平成26年5月11日(日)12:30～
場所:香川県観音寺市「観音寺グランドホテル」

（香川県・学びの森育心館）

(序)今回は紙面の都合で、本論から書きます。

（１）研修会第1部…『新しいコミュニケーションの方法』　仲野十和田先生（ナカジュク）

コーチングを使って、子どもたちと会話するとはどういうことか。ただ子どもたちに話しかけて、言葉だけで指導してもコーチングにはならない。石垣島で塾を見学して思ったことは、塾は地域と関わることでどんなところででも開くことができる。

（ここからプロジェクターとレジメによるプレゼンテーションが始まります。ごめんなさい、図もなしにその内容を詳しくお伝えすることができません。誤解をを招かないように、結論と思えることをザックリと述べることをお許しください。）

- 塾におけるコーチングは、ビジネスコーチングと違って、相手に考える材料をちゃんと与えてから物事考えさせる必要がある。
- 「夢」を簡単にもてる時代ではないときに、子どもたちに「夢」を持てというのは酷なことかもしれない。でも、人のために行動しようと考える子どもたちは多い。
  ここに、子どもたちとつながる部分を探せるのではないか。子どもたちのアクティブの先に『人のためになる』ことを語るべきである。

（2）研修第2部…パネルディスカッション「もう一度聞け、これからの塾に必要なことは何？」

湯口塾観音寺七間橋教室に移動。はじめに湯口兼司理事長から芸城学院の例（塾外生に対して、テスト対策を案内をして授業をする）を挙げ、「行動しなければ結果はない！」との叱咤激励から始まりました。そうです。あれこれと結果を考えないで行動して、どんな結果が出ても、反応こそが明日につながる一歩であると信じましょう。

無料授業攻勢の中でがんばっている若手
柳田浩靖先生（日本文化学院）

実は中3の募集はうまくいった。原因のいったんは無料授業攻勢で集めた塾が、塾生を集めすぎ、それ故授業の質が低下して近隣の塾に流れたことにある。つまりは無料授業攻勢をかけた塾が、今まで塾に行かなかった層の通塾を掘り起こしをしたと思われる。次に小学生の英語部門で、「スーパーイングリッシュコース」として、小学4～6年生で、中学3年間の教科書授業をネイティブがしているが、このコースは安定して生徒を確保できている。…いろいろやってますね。

経営に携わらなくなっても
佐藤將紀先生　（若竹塾）

講習料金の内部・外部生徒の差をなくしたり、初めてテレビCM　することにした。若竹塾のイメージ「授業は安心して任せられる。けれど、費用が高すぎる」を少し変えた方がいい。…時間をかけてもそうならざるを得ないのでしょうかね。

父の後を継ぎ益々発展させるために
渡邊浩先生（人間教育渡邊塾）

ジュニアの会の一人である渡邊先生。首都圏はほとんど個別塾が新出してきている。各駅停車の電車しか停まらないような駅近辺であっても、どんどん個別塾が場所取り合戦をしている。ただ、導入はしてみたものの、個別学習では様々の策を施しても成績が上がらない、というジレンマから抜け出すことができない状態が続いている。たぶん解決方法は、「自学自習」しかないだろうと思われる。つまり、教え過ぎを防ぐことをやってみている。…確かに、塾の先生は教え過ぎちゃうんですよね。

人が集まるのは好きだけど、実は集客に疎い
仲野十和田先生(ナカジュク)

東京の板橋で塾を経営されている仲野先生。教務力をアップさせることに重点を置き始めた。新任の

パネラーを務めた8名の皆さん。着席者左より井原、城、大住、寺嶋、仲野、渡辺、佐藤そして柳田（敬称略）

先生や講師の募集のとき、「ナカジュクへの5つの質問」を考えてきてもらい、その人に塾長を面接してもらう。そして、その面接のときにナカジュクがどんなところなのかを切々と語る。そうやって教務力を上げることで差別化を図る。アルバイトの学生を含め、講師と語り合うことを大切にしている。さらにアルバイトの人は学生も含め、社会で何らかのはたらきをしてこられて方を採用するようにしている。…人柄がにじみ出てますよ。働きたい人はいっぱいでしょう。

無茶ブリでパネラーになってしまった

井原大平先生（総合教育商社翔英館）

13年前、圧勝できて、大手が出てこなそうなところに塾を作ろうとしたら、大阪生まれでありながら、千葉の銚子に開塾。人口比から考えて塾生の生徒数を考えていた。集団授業を展開してきたが最近、「4対1」の個別授業を始めた。どうやれば教えすぎない授業をすることができるか思案中。様々なことをデータをもとに判断し、人を納得させている。フェイスブックの中では、毎日前に向かって進んでおられ、反省もちゃんとできる。…かなり熱い先生ですね。目が光ってます。

香川での研修会が里帰りになってしまう

大住明敬先生(聖学舎)

埼玉で17年前に、某大手塾の室長を辞め独立。前塾での反省から、生徒密着型の塾を作りたいと考えている。授業を通して、常に生徒と向かい合っていたい。講習会では約10万円の費用がかかるけれど、子どもたちは満足している。教室は畳敷きで寝ころんでもかまわないから勉強への目覚め、意識付けをしている。誕生日には必ずはがきを送る、それは、卒業生にもやっており、友達づきあいをしている。教える時間が4割、演習が6割の授業構成にしている。塾は生徒の成績を上げることにその存続意味がある。…確かに原点はそこにあります。

人口減少の真っ只中で

寺島謙次先生(学習院セミナー)

人口減少が招くことは塾の淘汰。教える技術がまず大事。技術を持っていれば淘汰される中には入らないはず。しかし、それでもなおこの人口減少と対峙するには、「新たなニーズの掘り起こし」が必要になってくる。だから、何か新しいものを見つけ、チャレンジしていこうと考えている。…やはり、そこ、ですね。然り。

職員とのつながりが大事

城　忠道先生（芸城学院）

職員とのつながりは子どもたちとのつながりくらい大切。引退した今こそ40年ともに暮らしてきた胃痛と分かれることができた。聞く耳を持って人の話と聞いてこそその話がその人の身になり骨になるものだ。宝は、見つける目が有ってこその宝です。研修会に参加して、いっぱい拾って帰ってください。…ハイ！

(3)懇親会、反省会

ん？今回の懇親会は何か寂しいなぁ…。そうだ！テスト期間中にかかったもので、参加されてない方が結構いらっしゃるんだ。いやぁ、残念。でも、本音出しまくり、内情ばらしまくりは相変わらずのこと。どんなメンバーでも研修会の醍醐味が消えるはずがありません。

今回も関東からわざわざ駆けつけていただいた先生方、それに快くパネラーや研修の講師を引き受けていただいた先生方。本当にありがとうございました。いつも思うことですが、あえて何度でも書きます。私塾ネットに加入していて良かった！研修に参加して良かった！皆さんありがとう！
そして、次回は愛媛で９月にまた会いましょう！

←東京からは漫才コンビ「浩ちゃんズ」も参上。つっこみの柳田さんとぼけの渡辺さん

広がる懇親の輪

エリア関東　代表　大住　明敬
（埼玉県・聖学舎）

ネット関東は元気です

新体制となった今年は各部の部長を中心に多くの先生方のご協力を頂いていろいろな活動を新たなメンバーで進めていきたいと考えています。いわゆる集団指導体制を確立させたいと思っています。

早速6月から動き出しました

その内容は、6月の定例研修会の報告を中村先生にお願いしました。また高校入試情報については多くの会員の先生方のご協力をいただきました。更に７月13日には訪問研修会を埼玉の「彩北進学教室」「向学館」のご協力をいただくことができました。また、9月の懇親旅行、10月の私学情報交換会も段取りが進んでいます。ネット関東は元気です。

東京都立高校入試事情

報告:岩瀬　善孝（ナカジュク）

1.入試制度

東京都立入試は推薦入試と一般入試に分かれています。推薦入試は面接と小論文・作文、内申点で判定されていましたが、一昨年度（現高2）より集団討論が加わりました。これは個別の面接ではわからないリーダーシップや人の意見を聞く、まとめるといった能力が問われる試験です。一般入試は学力:内申＝7:3～5:5。内申点について東京都は転入・転出が多いことを考慮して、中学3年次もののみを使用。都立入試は平成28年度（現中2）から制度が以下のように変わる可能性が高いです。

全日制の入試科目は全て5教科

- 現在、一部の学校では3科目の入試も実施していますが、すべての学校で5科目の入試になります。
- 傾斜配点も無くなっていく方向で話し合われています。
  ＊傾斜配点・・・英語・数学などの得点を1.5倍する学校もあります

全日制の入試の得点配分は　学力:内申＝7:3（後期入試は3教科学力:内申＝6:4）　⇒学力検査が重視されます！

内申の実技科目が1.3倍から2.0倍に変更

現　行　5教科1.0×　＋　実技4教科1.3×　＝　51点満点

改定後　5教科1.0×　＋　実技4教科2.0×　＝　65点満点

⇒内申点において実技教科が今まで以上に重要になります！

特別選考枠の廃止

- 北園高校等で実施している入試の点数のみでの合否が決まる特別選考がなくなります。

5.　前後期の分割募集は維持

男女枠については検討中　男女枠□男女間の合格者の人数を調整する制度

2.平成26年度　入試問題分析　特徴

①国語

○大問1漢字読み10点、大問2漢字書き10点、大問3文学的文章25点、大問4説明的文章30点、大問5古文をテーマにした対話文25点。選択問題中心。

○特に大問3と大問5の記述は去年と比べて出題文がシンプルになった。昨年はそれ以前の問題と少し変わった問題が出題されたが、今年は一昨年の形式に戻った。

②数学

○大問1で指導要領の改訂に伴い追加された内容が3問。「解の公式」「中央値」「回転移動の作図」が出題。

○大問2「文字による説明」大問3「関数」大問4「平面図形」大問5「空間図形」に出題の大きな変化はない。

③理科

○配点:物理27点、化学23点、生物23点、地学27点　4分野から万遍なく出題。

難易度:過去5年の中で最も難易度が高かったのではないのだろうか。理由は3つある。

1.計算問題の増加　2問→5問。
2.受験生の苦手とする資料の読み取りが多く、出題者の意図が分からず正解に辿り着けない。
3.大問3以降の問題が浅い知識だけでは解けなく、かつ問題が複雑であった。

④社会

○配点:地理40点)世界地理20点、日本地理20点(、歴史30点、公民30点で昨年と同じ。平均点が24年度は57.7点、25年度は51.5点であったせいか、今年度は昨年度よりも若干易化。

⑤英語

○小問の内容が2問ほど変わった部分はあるが、出題形式は基本的に去年と変わらず。大問1リスニング20点、大問2図表を用いた会話文24点、大問3会話文28点、大問4長文28点。

○部分的に難化、易化は見られるが全体を通した難易度に大きな自体に変化は無い。

3.都立高校

東京都は、様々な特色を持った都立高校を都立改革として作ってきました。その一環として進学指導重点校【日比谷、戸山、西、八王子東、国立、立川、青山】があり、その満たすべき基準として東大、京大、一橋大、東工大、国公立医学部を15名以上現役合格としています。青山高校は平成25年度までその基準を満たしておらず進学指導重点校から外れる可能性がありましたが、平成26年度大学受験において17名の合格者をだし、進学指導重点校として継続が決まりました（全校とも平成29年度に改めて検討）。また、日比谷、西は東大合格者を30名以上（浪人含む）出しました。

大学進学実績は都立上位校のあくまで一例で、他にもそれぞれ特色を持った都立高校があります。不景気、公立高校無償化などの要因を背景に人気を集めてきたと言われてきた都立高校ですが、それぞれに魅力を持った学校に生まれ変われるかは、景気が回復してきた今こそ、勝負のときなのかもしれません。

埼玉県の公立高校入試事情

蓮　克彦（彩北進学塾）

埼玉県公立高校入試は、3月の1回入試3年目を迎え、受験生・保護者にも定着した感がある。各高校の学検、調査書の扱いも安定してきたといえる。これにより合否の予測がたてやすくなったこと、併願校選択の重要性が増したことなどが見て取れる。ただし、内申の加点項目となる生徒会長や学級委員、部活の県大会レベルの評価は各教科の評定を大きく上回る学校も多い。各種検定も準2級や2級などで加

点とする学校も多くなっているので、一概に、学検の点数だけで判断するのは難しいことは確かである。

そして、中学校へ学校単位で、受験生の得点を開示することも始まっているので、今後の中学校の進路指導の変化をもたらす可能性も秘めている。さらにいえば公的テストの拡大によって中学校側も偏差値を持っているので、今後、塾の持つデータ以上のものを学校がきちんと正確に活用するようになると、塾の進路指導にも影響が出るものと思われる。

今年の県内公立高校入試の志願者数が47,015人であったが、全日制の平均倍率が1.18と昨年と同様になった。また、今年は志願先変更2回の最終年度となり、来年度入試からは志願先変更は1回のみとなる。

例年、私立単願の生徒と公立志望の生徒で約40日間のタイムラグが発生するので、その間の生徒の心理状態が非常にナーバスとなっているのが実情である。

入試問題に目を向けてみると、出題傾向に大きな変更はないが、指導要領にある「思考力、判断力、表現力」を問う問題が多くみられる。年々、記述問題の増加傾向にあるが、今年も昨年に比べると全体として約5%増加した。配点ベースでみると昨年67,6%が今年は72.4%へとなっている。特に目立つのは理科で、問題数33問に対し、記述問題が24問となっている。設問にも若干の変化があり、国語では、問いの意味を考えさせる問題が出題された。社会では択一ではない選択式の問題も出題された。全体的にみると自由記述の問題が増加しており、部分点によるところが大きくなったため、受験生にとっては自己採点しにくい状況になっている。難易度は相変わらずで、5科の平均点249.6点となった。国語の平均点は64.0点であるが、他の4教科の平均はいずれも50点に満たない点数となっているので、中下位層の受験生にとっては差がつきにくい入試となり、内申点による勝負になるといっても過言ではない状況だ。

私立高校入試について一言付け加えるならば、平成22年から1月22日の解禁日のみとして、入試解禁日の1本化に踏み切っています。埼玉県内の私立高校への応募者は1月日程だけで総数の約92%を占めているので、後期募集は、すでに欠員補充の意味合いしか持たないものとなっています。

神奈川県の公立高校入試事情

中村　直人（中村学院）

神奈川公立高校の入試が、新制度になって今年で2年目。公立受験希望者が戻ってきたこと、卒業生予定者が増えたこともありましたが、高校側の募集人員を増やした対策も効いて、実質倍率が微増の1.18倍（合格率84%）に収まりました。倍率トップは、横浜翠嵐の1.76倍、2位が神奈川総合個性化の1.68倍、相変わらず県下のトップ校は、1.45倍前後の倍率をマークしております。

学力検査の難度の変化・・・新制度前までは、平均点70点以上もあるような、パターン化された、全国的にも易しいものでしたが、今年は平均点52点（昨年度より総得点で45.4点下がる）というように、この2年で、今までの過去問があまり役に立たないほどの、内容の難化が見られました。これは、上位校の独自入試の廃止により、全校が同じテストを受けなければならないこと、県教育委員会の新指導要領に基づく**「思考力、判断力、表現力等」**を測るという指針に従った、記述式の問題が増えたことなどによります。特に理科は、平均点38.6点と、全国最高レベルに難化しました。少しは、揺り戻すでしょうが、この傾向は変わらないものと思われます。

面接の得点化では、実際どのようだったか・・・昨年より、結果を得点化し、最低でも全体の2割にあてるという縛りのある面接ですが、実際どう差がついたのか、という点では、テスト会社による集計では、なんと標準偏差0（全員同じ得点）の学校が多くあり、ほとんどの学校で標準偏差が少なかったようです。大きかった学校は、どちらかというと下位の学校のようですが、学力検査と面談の得点との相関関係はないようです。面接シート以外の、学校ごとの観点では、「高校での教科への学習意欲・教科以外への意欲」「面接の態度」「将来の展望」といった所が、チェックされたようです。

特色検査で差はついたのか・・・実技を行う学校以外は、上位校のみで行われる特色検査ですが、各高校の生徒選抜の方針で、いろいろ違う様相を示しています。特色検査を学力検査の補完あるいは延長と考えている学校では、相関がプラス。つまり、学力検査が良いものは特色検査でも良い傾向。例えば、厚木など。そういう学校は、面接の差をつけないで、内申と学力検査の結果を重視するようです。横浜翠嵐などは、相関がマイナス。成績が取れても、特色検査で逆転することがあるということです。高度な問題を課すので、いわば天才型を拾い、その他は学力の高いものを取るという方針なのでしょう。スピーチ型の、光陵では、標準偏差が0に近く、ほとんど満点というように、特色検査をやる意味が？という所もあります。

湘南・サイエンスフロンティア・希望が丘・小田原・市立南・光陵・横浜国際など半数の学校は、標準偏差は±0.1程度に収まっているようです。

各学校の問題研究は必要ですが、初見の問題でもあせらず対応できるように、柔軟に思考する特色検査用の対策は必須です。

昨年度ここに書きました、面談や特色検査の結果も公表すべき、という点では、本年度より簡易開示されるようになったことは、喜ばしいことです。某予備校のお陰！

また、志願変更も日時に余裕を持たせ、面接シートの書き換え期間もとれるようになり、昨年度よりも改善されました。

学力考査の難化は、中・低位の生徒達の受験指導がより難しくなることになります。実際には、点を取る問題の見極め、基礎問題を確実に解けるようにすること、記述問題に対して、なにかしら書くように、指導していくことなどが、必要となってきましょう。

（誌面の都合上千葉県の入試事情は次号に掲載します）

私塾協同組合連合会「第21回全国研修大会」（埼玉県私塾協同組合主幹）平成26年6月1日 「大宮ソニックシティ・パレスホテル」にて開催

第1部の基調講演とパネルデイスカッションは、14：00より市民ホールにて開催。坂田理事長の開会の辞でスタート。その後来賓のご挨拶・ニュース作文コンクールの表彰式が行われた。

15：00より「2020年に向けた教育改革」～真のグローバル化とは～のテーマで村瀬剛太文部科学省大臣官房政策課企画官の基調講演。

日本の50年後の人口は3割減、4分の1が高齢化。2011年の調査では自分はダメと思う高校生が、1980年の統計の３倍になっていて、人材育成の必要性が急務。オリンピックを基盤に、ハードからソフトに経済成長を加速化させる必要がある。

小学生の英語授業の充実。国際バカロレの認定校を日本では２０校→２００校が目標。海外留学の促進と外国人留学生の戦略的な受け入れを提言。

その後パネルデイスカッションが、基調講演を受けて４名の先生方で行われた。司会の山田先生より簡単にご紹介があり、各先生方が約１０分前後お話しをされた。

先ず１番手は駒込中学高等学校の河合孝允校長先生。20世紀は大量消費社会であった。２１世紀は高度情報革命の時代であり、産業だけでなく、教育もＩＴや英語教育によるグローバル化の波が来ている。そして又、自ら考え解決する力が要求されている。シンガポールの教育などの紹介され、上級レベルではバイリンガルが要求されると。智の編集能力を高める教育をすべきとのお話があった。自己肯定感の強い子供を育てていくとの決意。

続いて大妻嵐山中学高等学校の真下峯子校長先生：県立女子高校の教頭・校長を歴任。経験を活かしての女子教育とグローバル化に取り組む。女性の活躍が日本の再生に欠かせない。生活面を広げる事が必要。そして人格の陶冶・社会に貢献していく力をつける。しっかりした人格や力や多様性を認める女性を育てていくことが大切とのこと。

基調講演に立たれる先生方。左2人目から河合、真下、北原、布浦の4先生

続いて明法中学高等学校の北原達正先生：京大大学院で宇宙物理学を専攻。平成13年に子供の理科離れをなくす会を立ち上げ、京都市内の私立中学・高校では科学実験教室を実施！教育の機会均等として、全国へ。宇宙開発ロボットの実験などできっかけ作り。日本の学生は調べ学習をしない。海外の留学生との大きな違いができる。科学技術教育をしない国はないのに、サーカー・野球などで勝つと皆が褒めるが、科学で総理大臣賞をもらっている小学生の名前知っていますか。ロボット大会に、海外では大臣が出席するが、日本だけ知事も来ない。日本には経験者がいないが、科学には経験が必要。論理的な思考・科学分野では、客観的数字だけが物をいう。現在、小中高校生を一緒に科学実験をしている。

最後に布浦万代学習塾ひびき塾長のお話があった。国内のみならず、海外での講演も多い。布浦万代塾長先生は13歳から万葉の一人旅をスタート！現在56カ国を旅しました。大学卒業後は高校の国語の教員に。そして脳外科の先生の「万葉集の1首も暗唱してこなかったので、早いうちに中学生の息子さんに教えてほしい」とのことがきっかけで万葉集の指導を授業の中に導入。現在もあちこちを旅をして、学校内にある立派な歌碑を読めない先生方。地元の歌碑を皆知らない実態など。

20代の西ベルリンでの経験から、自国での文化・歴史を語れることが国際化の条件だと気づく。自国を知り、自分を知ることが重要。グローバル化は、身近な所から知ることが大切。

予定通りの17：30に終了し、18：00より「パレスホテル」第２部の懇親会へと移りました。ヴァイオリンとピアノ演奏を聴きながら、楽しい会食と歓談を楽しみました。

私塾ネットからは大住先生・村社先生・私の3名が参加しました。

報告：監物 一男（埼玉県・向学館）

第９回全国模擬授業大会見学記―チョーク一本で教育改革を―

５月２５日（日）、栃木県足利市において「第９回全国模擬授業大会」（主催・開倫塾）が開催されました。『チョーク一本で教育改革を』をテーマに掲げ、全国の学校、塾の先生を対象に授業力を高める目的で毎年行われています。出場者のレベルは年々高くなってきており、どの授業も見応えがありました。

授業者は５８名、審査員は４０名、他多数の見学者が参加しました。授業者の持ち時間は１５分です。各単元の「導入部分」を、いかにわかりやすく、スマートに、そして「なるほど！」と思わせられるかで審査が行われます。予選、予選決勝、本選があり、本選は国語、数学、理科、社会のそれぞれの科目の中で選ばれた代表者が技を競います。その中で、見事最優秀賞を勝ち取ったのは愛知県にある野田塾の高田晋輔さんでした。

高田さんが授業したのは中２理科の感覚器官です。授業として一番大切な教科の専門知識もさることながら、会場を一体化し巻き込むパフォーマンスや、声の抑揚・計算された板書の緻密さなど、見る人を飽きさせないパワーに会場が圧倒されました。本選では他にも甲乙つけがたい授業が披露され、見学しているだけでも十分に学びが得られる大会となりました。

閉会式では審査委員長の野田塾塾長・小川英範氏より講評をいただきました。授業を細かく区切り、今何をしなければならないのかを明確にさせる「セグメント」の大切さや、授業の基本動作である立ち位置についても「生徒に背を向けず、黒板に対して斜めの位置で立つ」「常に中央が基本」と細かいところまでもお話をいただきました。経験の浅い先生にとってはもちろんのこと、ある程度経験数の豊富なベテランの先生にとっても、今の自分の授業をもう一度振り返り基本を見直しをする良い機会になったことと思います。ご自身が担当されている科目以外の違う科目でも、真似や取り入れてアレンジできる部分は多いと思います。特に本選に残った先生方の授業は科目を問わず、自分の授業を改善する大きなヒントになりえたと思います。

最優勝賞高田さんの授業風景

また今回は初の試みとしてオールイングリッシュの部門も設けられ、三名の先生が挑戦されました。

『チョーク一本で教育改革を』の言葉通り、まずは自分の授業に改革を起こして、生徒・親御様に貢献するだけでなくそこから地域の皆様や世の中全体が良い方向に向かえるように社会貢献することが、「教育」に携わる者の役目であると感じた大会でした。

報告：加藤はるか（千葉県・LAPIS鎌ヶ谷）

エリア関東　６・７月定例研修会会レポート

第７３回定例会・第５４回定例研修会

平成２６年６月１２日（木）10:30から、中央大学駿河台記念館にて、ネット関東の第７３回定例会が開かれました。4月から、大住明敬先生を代表としての新体制になりましての初会合になります。まず、大住代表の清新な決意表明より始まり、一同新代表を支えてやっていこうという雰囲気に満ちていました。続いて、各部報告に入りました。特に、情報部の桂馬先生からは、千葉の私学の貴重な最新情報がありました。また、秋の情報交換会に向けての学校探しに、すでに精力的に活動されています。ネット関東の皆様、秋の情報交換会にご期待ください。

続いて、第５４回定例研修会が行われました。エデュケーショナルネットワーク開発本部　副本部長編集長の上野信二氏を迎え、「首都圏公立高校入試分析」というテーマで、ご講演をお願いいたしました。上野先生は、社内では教材制作の責任者として、入試においても全国の公立高校の問題に関して鋭い分析で、定評のある方です。今回は、新課程が入試へどのように影響を及ぼしているのか？首都圏、東京・神奈川・千葉・埼玉の公立入試に的を絞ってお話をしていただきました。

全国の受験事情に精通されている上野氏、熱の入った入試分析講演におおいに刺激を受ける

先生は、単にどんな問題が出ているという点だけでなく、正答率に注目し精密に分析をされています。

上野先生のエネルギッシュな講演は、非常に刺激のあるものでした。受験指導に、大変参考になります。

「いろいろ入試分析を聞いたが、今日の講演が一番面白かった。」という声も聞かれました。また来年も、上野先生のご講演を聞く機会を設ける予定です。是非、ネット関東の皆様、奮ってご参加ください。

報告：中村　直人（神奈川県・中村学院）

第７４回定例会・第５５回定例研修会
埼玉県北部２塾訪問

大住代表体制２回目の研修は13日、埼玉の２塾（彩北進学塾・蓮先生、向学館・村社先生）を訪問。蓮先生のきめ細やかな生徒への心配り、教室天井にまで彩られた写真に各先生から驚嘆の声。学年・科目によって教材を採用している等、並々ならぬ教務への情熱が感じられました。

左から蓮先生と村社先生

村社先生の塾は今年が改革元年。これまでの一斉授業に加え、e-learningを使用した集団個別指導態勢の確立に至った経緯やご苦労を伺いました。また難問・埼玉県入試や国語指導への取り組みについて、活発な議論が交わされました。終了後は懇親会が行われ、木谷先生の手相占いに行列ができるなど終始和やかな雰囲気で、来るべき夏を終えての再会を各々約束して、熊谷を後にしました。

私塾ねっと誌上句会　第十八回
編集部選

坂道のてっせんのぞく垣根かな
指さして道行く人やつばめの子　中村直人（神奈川）

「鉄線」、クレマチスというステキな呼び名があるが、どうやら別もののようだ。それにして「鉄線」とは無機質な名だ。

土いじり北に寄る太陽は夏の夕
汗ひかり妻の畑に夏来たり　岸部雄一（北海道）

岸部さんは根室市在住、「土いじり」の句からその地理関係が読みとれる。奥様が闘病中とのこと。そこで「妻の畑」を管理されているのだそうだ。ご回復をお祈りします。

梅雨明けの水船あふれ古社
鉛筆を置きて思案のうちわかな　十亀幸雄（愛媛）

水船、水をためておく大きな桶。木製で上下二段の物が一般的。梅雨時の古社によく似合う風情のある風景。

わが庭につばめ飛びけり立夏かな　石田治正（東京）
夏日和風鈴鳴りて道しるべ

毎年のツバメの訪れは、老齢の身にはおおきな励みであろう。益鳥である彼等を歓迎するのは農家ばかりでない。町中でも軒先に作られた巣を大事にされる商家も多い。

白鷺の脚までとどく植田かな　谷村志厚（千葉）
極楽へ三途を渡る蓮浮葉

田んぼを見ながら通勤をする。田打、水田、早苗田、植田、稲田、刈田と季節の移ろいとともに季語も変わる。農耕民族だな我々は。

編集部からお願い
次号は10月末発行の秋号です。
投句はお一人3**句まで夏の季語**でお願いします。
投稿はメールshikot@aim-net.co.jpまたはFAX047-368-2189
締切は10月15日です。ふるってご投稿ください。　谷村宛

閑話休題　編集長　谷村志厚

病癒え一年を経る盛夏かな（酒肴）

ちょうど一年前、予期せぬ急病に侵され緊急入院を余儀なくされた。そのせいで広報44号の発刊が10日ばかり遅れることになったのだが、あれから一年、内出血をおこした腎臓は回復した。であろう？たぶん。なにしろ沈黙の臓器であるゆえに、音沙汰のないのは朗報としておこう◆入院後、体重が6kg落ち血圧は140を切り正常値となった。病院食とアルコール抜きの結果で思わぬ「副作用」によろこんだ。病癒えて一年、体調はもどったが、体重そして血圧値も元にもどった。健康回復！？なにやら複雑な心境ではある◆さて、昨今の教育界のキーワードはICTである。インターチェンジではない、情報通信技術というやつである。5月に東京ビッグサイトで開催された教育ITソリューションEXPOには27000人を越える入場者を数えたという。教育現場におけるICTとは、具体的にはタブレット型コンピュータを生徒に持たせ、教室での授業と家庭学習を連動させようとする試みである◆よく引き合いに出されるのが、佐賀県武雄市の事例である。同市ではこの4月から市内全小学生にタブレット端末を配付するこころみに着手している。さらにこのデジタル授業のソフト制作と運用に、学習塾のノウハウを採用するといった事態が起こっている◆今から四半世紀も昔、パソコンの普及とともに、CAIと称するコンピュータ利用の学習支援教材が脚光をあびたことがあった。かくゆう小生もその旗振りをしていた時期があった。ハード、ソフトメーカーもこぞって教育市場のPC化に躍起になったが、期待するほどの成果はえられなかった◆今回も同じ轍を踏むとのむきもあるが、今回は事情がちがっているように思える。その当時には考えられないほどの「通信技術」のイノベーションがその背景にあるのだ。そして家庭への通信網の普及が、よりいっそう教育のICT化を現実的なものとするであろう。チョークと黒板の授業からディスプレーとタブレット端末の時代に、戦後70年の学習塾の歴史に、新たなイノベーションの時が到来したのではないだろうか。若手の皆さんにその対応を期待したいものだ。

私塾ネットセンター　事務局通信

事務局長　仲野十和田(ナカジュク)

先日、全国教育コミュニケーション研究大会（日本青少年育成協会主催）が、代々木オリンピックセンターで行なわれました。数年前まで文科省主催だった関係で、公立校の先生も多くいらっしゃいます。３日連続のプログラムでしたが、初日に橋本聖子さん（現参議院議員）の講演がありました。

「聖子」という名前はオリンピックの「聖火」から取ったことは結構有名なことですが、その名の通り、彼女は昭和３９年１０月５日生まれ、つまり東京オリンピック開会式の５日前に誕生したのです（余談ですが、私と同じ年生まれです）。お父さんは大正生まれの厳しい方でしたが、大のオリンピック好きで、聖子さんの誕生を見ることなく、北海道から東京に飛び立ち、国立競技場の最前列で聖火ランナーを見て、あまりの感動に娘へ将来オリンピック選手になって欲しいと願い、名付けたそうです。そして、７回のオリンピック出場を果たすわけですが、親の思い込みが子どもに与える影響は本当にすごいと感じました。逆にこどもが「おバカ」だと思い込めば、その方向に行く可能性も高いということですね。彼女の人生はある程度順風満帆にいったのかと思っていましたが、実は小学校のときに腎臓病が発覚し（病院で友達が亡くなっていくことの体験し、生きてできる苦労は幸せなことだと潜在意識に焼き付いたようです）、１７歳で訪れるオリンピック選考の１年半前には、それに加え肝臓、精神障害を煩い、生死を彷徨ったとのこと。その時の色々な方々との出会いが、その後の活躍に繋がることになるのですが…。

数々の印象に残る話の中で、アトランタオリンピックの選手団の話がありました。飛行機で現地に着いて、選手たちの座っていた座席をみると、ゴミが散乱していたそうです。そして、その時の日本は惨敗の結果に。橋本さんは、その時から「オリンピック選手である前に、人間としてどうあるべきか」を問い、選手の育成に関わっているとのことです。

「最近の選手たちはテレビを見ていてもとても礼儀正しいでしょ」と。

それに伴い、メダルの数も増えてきているそうです。

お父さんの子育ても、これまた面白いのですが、「教育」が人間を作ることを、改めて考えさせられた講演でした。

さて、

エリア東北主催の研修会が、８月３１日（日）　青森県青森市、

エリア関東主催の懇親旅行が、　９月７（日），８日（月）　静岡県熱海市、

エリア四国主催の研修会が、９月２８日（日）　愛媛県新居浜市

にて、それぞれ開催されます。皆様とお会いできることを楽しみにしています。

フォート・ほっとコラム

郷愁　＜ノスタルジア＞

富士の裾野の牧場にあったツリーハウスです。

過ぎし日の早きを憂うこの頃、ふと目にしたツリーハウスに幼き日への郷愁にかられる。

暑い日の続く日々、草木は日差しのエネルギーを取り込んでどんどん大きく成長し、枝葉を伸ばし、華やかに花を咲かせて実を結んでいきます。そしてその力を感じてか誰もがこの時期冒険してみたい心の昂ぶりを覚えます。

そういえば遠い日、夏休みを指折り数えて楽しいことを一杯計画して心躍らせていた少年時代がありました。

こうした郷愁はさておき、塾はこの暑い時期に大変多忙で大切な夏期講座を迎えるわけですが、今年は「いつもと同じ」の講座ではなく、パッと花咲き、実を着け、大きく成長していくためのちょっとした成長戦略を打ってみてはいかがでしょうか。もちろん危険は伴います。でもワクワクさせる企画とそれを実行する強い情熱（こころ）があればきっと現状を打破し、あの木の上から眺めた景色のように大きな視野に立ち大海へとかじを切ることができるはずです。

何かを求め、何かを信じて危険を冒す勇気。それは時としてマンネリを打破し、元気に生き生きとさせてくれる力に変えます。

ここでもう一度若き日の心で挑戦し、夏の暑さを吸収し自塾の活力に変えてみてはいかがでしょうか。

郷愁…過去を懐かしむ気持ち。

（文＆写真:城忠道・エリア中国・芸城学院）

賛助会員一覧（順不同）

関東国際高等学校　村山ｻﾝﾄﾞﾗｰ先生
東京都渋谷区本町3-2-2　TEL03-3376-2244

江戸川学園取手中学高等学校　竹澤　賢司先生
茨城県取手市西1-37-1　TEL0297-74-8771

十文字中学高等学校　夘木　幸男先生
東京都豊島区北大塚1-10-33　TEL03-3918-0511

東洋高等学校　丸茂　隆 先生
東京都千代田区三崎町1-4-16　TEL03-3291-3824

桜丘中学高等学校　品田　健 先生
東京都北区滝野川1-51-12　TEL03-3910-6161

聖徳大学附属中学高等学校　川並　芳純先生
千葉県松戸市秋山600　TEL047-392-8111

麹町学園女子中高等学校　大野　博人先生
東京都千代田区麹町3-8　TEL03-3263-3014

春日部共栄中学高等学校　宇野　禎弘先生
埼玉県春日部市上大増新田213　TEL048-737-7611

大成高等学校　岡田　政雄先生
東京都三鷹市上連雀6-7-5　TEL0422-43-3196

東京立正中学高等学校　藤井　教戒先生
東京都杉並区堀ノ内2-41-15　TEL03-3312-1111

八雲学園中学高等学校　横山　孝治先生
東京都目黒区八雲　2-14-1　TEL03-3717-1196

関東第一高等学校　副田　康孝先生
東京都江戸川区松島2-10-11　TEL03-3653-1541

武蔵野中学高等学校　鏑木　文夫先生
東京都北区西ヶ原4-56-20　TEL03-3910-0151

和洋国府台女子中学高等学校　西山　紀子先生
千葉県市川市国分4-20-1　TEL047-371-1120

新渡戸文化中学高等学校　藤井三恵子先生
東京都中野区本町6-38-1　TEL03-3381-0196

文京学院大学女子中学高等学校　嶋田　栄司先生
東京都文京区本駒込6-18-3　TEL03-3946-5301

東洋大学付属京北学園　杉原　米和先生
東京都北区赤羽台1-7-12　TEL03-5948-9113

大森学園高等学校　矢部　一紀先生
東京都大田区大森西3-2-12　TEL03-3762-7336

東京成徳大学中学高等学校　増澤　文徳先生
東京都北区豊島8-26-9　TEL03-3911-2786

日本工業大学駒場中学高等学校　河村　文夫先生
東京都目黒区駒場1-35-32　TEL03-3467-2130

青稜中学高等学校　笠松　芳幸先生
東京都品川区二葉1-6-6　TEL03-3782-1502

東京女子学園　実吉　幹夫先生
東京都港区芝4-1-30　TEL03-3451-6523

駒込中学高等学校　河合　孝允先生
東京都文京区千駄木5-6-25　TEL03-3828-4141

愛国中学高等学校　高橋　英夫先生
東京都江戸川区西小岩5-7-1　TEL03-3658-4111

安田学園中学高等学校　福谷　隆芳先生
東京都墨田区横綱2-2-25　TEL03-3624-2666

科学技術学園高等学校　船津　和良先生
東京都世田谷区成城1-11-1　TEL03-5494-7711

日本音楽高等学校　伊庭　崇　先生
東京都品川区豊町2-16-12　TEL03-3786-1711

立正中学高等学校　今田　正利先生
東京都大田区西馬込1-5-1　TEL03-3492-4416

上野学園中学高等学校　高橋公美子先生
東京都台東区東上野4-24-12　TEL03-3842-1021

二松学舎大学付属高等学校　舘野　宏　先生
東京都千代田区九段南2-1-32　TEL03-3261-9288

村田女子中学高等学校　二渡　道雄先生
東京都文京区本駒込2-29-1　TEL03-5940-4187

自由学園（中等部・高等部）　更科　幸一先生
東京都東久留米市学園町1-8-15　TEL042-422-3111

帝京中学高等学校　大谷　幸男先生
東京都板橋区稲荷台27-1　TEL03-3963-4711

京華学園　今野　巌　先生
東京都文京区白山5-6-6　TEL03-3941-6493

千代田女学園　長尾　和雄先生
東京都千代田区四番町11　TEL03-3263-6551

日出中学高等学校　大江　律夫先生
東京都目黒区目黒1-6-15　TEL03-3492-3388

目黒学院中学高等学校　阿部　幸彦先生
東京都目黒区中目黒1-1-50　TEL03-3711-6556

共栄学園中学高等学校　松宮　博　先生
東京都葛飾区お花茶屋2-6-1　TEL03-3601-7136

東京家政学院中学・高等学校　滝沢　保一先生
東京都千代田区三番町22　TEL03-5245-6534

東京女子学院中学・高等学校　宗内　信二先生
東京都練馬区関町北4-16-11　TEL03-5903-9559

酪農学園大学付属ときわの森三愛高等学校　黒畑勝男先生
北海道江別市文京大緑町５６９　TEL011-386-3111

(株)創開コミュニティー　小林　和光様
千葉県柏市柏2-7-22-202　TEL04-7164-6511

ドラゴンフィールド㈱　山田　博史様
千代田区神田錦町3-23錦町ビル8　TEL03-5282-3174

㈱パワーコンサル　大島　義則様
渋谷区渋谷1-7-7 青山通りビル12Ｆ　TEL03-5928-1686

㈱私塾界　山田未知之様
豊島区東池袋1-39-1三善ビル　TEL03-3987-0838

㈱ＳＲＪ　板橋　玲　様
港区芝公園2-4-1柴パークB館102　TEL03-5425-6534

デザインオフィススズキ　鈴木　学　様
千葉県柏市柏687-6　TEL04-7164-8276

(株)ぱど　田中　和博様
品川区大崎2-13-17 目黒東急ビル　TEL03-5155-8122

(株)エドベック　千葉　貴広様
横浜市中区山下町25-15 ﾌｭｰﾁｬｰ山下　TEL045-226-5494

(株)ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾅﾙﾈｯﾄﾜｰｸ　斉藤　高志様
千代田区富士見町2-11-11 峰ﾋﾞﾙ3F　TEL03-5275-2101

(株)ｱﾘｽ・ｲﾝｽﾃｨﾃｭｰﾄ　中嶋三十理様
埼玉県富士見市関沢2-14-8 ｻﾝｾﾞｰﾑ101　TEL049-293-8056